

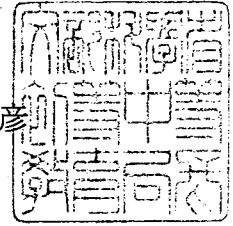


24文科初第34号
平成24年4月3日

各都道府県教育委員会教育長
各指定都市教育委員会教育長
各都道府県知事
附属学校を置く各国立大学法人学長
小中高等学校を設置する学校設置会社を
所轄する構造改革特別区域法第12条第1項
の認定を受けた各地方公共団体の長

殿

文部科学省初等中等教育局長
布村 幸彦



(印影印刷)

新学期を迎える児童生徒と学校関係者への文部科学大臣からのメッセ
ージについて (通知)

このたび、文部科学大臣より、東日本大震災から約1年を経て、別紙のとおり、新学期を迎える児童生徒と学校関係者に対するメッセージを公表しました。

このメッセージは、文部科学大臣から「新学期を迎える皆(みな)さんへ」と題して全国の児童生徒へ、「全ての学校関係者の皆様へ」と題して教職員をはじめ全国の学校関係者へ、東日本大震災を乗り越え、未来を切り拓いていくことを願い、改めてこれまでの取組に対する感謝や激励の念等を表しているものです。

つきましては、都道府県・指定都市教育委員会教育長におかれましては所管の学校及び域内の市町村教育委員会に対して、都道府県知事及び構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた各地方公共団体の長におかれましては所轄の学校法人及び学校設置会社に対して、国立大学法人学長におかれましては設置する附属学校に対して周知を図るとともに、このメッセージが各学校の児童生徒及び教職員等に行き渡るよう、特段の御配慮をお願いします。

なお、文部科学省ホームページ (<http://www.mext.go.jp>) にも同メッセージを掲載しています。

(本件連絡先)
文部科学省初等中等教育局
初等中等教育企画課企画係 清水
(電話) 03-6734-2589 (直通)
(FAX) 03-6734-3731
(E-mail) syoto@mext.go.jp

(全国の小学校段階の児童向け)

しんがつき むか
新学期を迎えるみなさんへ

みなさん、入学、進級おめでとうございます。

ことし べんきょう ちから はつき あたら ともだち つく
今年もまた、勉強にスポーツに力を発揮し、新しいお友達をたくさん作ってくだ
さい。

にほん おそ おおじしん つなみ いちねん
日本を襲った大地震と津波から、一年がたちました。

ひがい ちいき ふじゆう せいかつ かた
被害にあった地域には、まだたくさんの、不自由な生活をしている方たちがいます。
がっこう こわ きょうしつ じゅぎょう う
学校が壊れ、まだきちんとした教室で授業を受けられない子どもたちもいます。

いちねんかん ぜんこく ぼきん てがみ か かたち
この一年間、全国のみなさんは、募金をしたり、手紙を書いたり、いろいろな形で、
ひがい かた はげ
被害にあわれた方たちを励ましてきました。

えがお わたし おとな みらい きぼう おし
なによりも、みなさんの笑顔が、私たち大人に、未来への希望を教えてくださいました。

ほんとう
本当にありがとう。

たにん おも きも わす あたら いちねん す
そして、どうか、そのような、他人を思う気持ちを忘れずに、また新しい一年を過
ごしてください。

にほん しぜんさいがい おお くに
日本は自然災害の多い国です。

つなみ じしん わたし う わかやまけん さくねん すいがい おお ひがい う
津波、地震だけではなく、私の生まれた和歌山県も、昨年、水害で大きな被害を受
けました。

しぜん にんげん きび しれん な わたし にんげん しぜん
自然は、人間に厳しい試練を課すときがあります。しかし、私たち人間は、自然か
らの恵みを受けて生きていることも間違いありません。

べんきょう しぜん とも い ち え まな
どうか、たくさん勉強をして、自然と共に生きる知恵を学んでください。

今回の震災では、外国からもたくさんの手助けや励ましがありません。

日本と日本人は、ひとりぼっちの存在ではありません。

みなさんは、大人になってから、助けてくれた外国の方たちに、きちんとお礼を言える人間になってください。そして困っている人がいたら、生まれた国や民族に関係なく、手をさしのべられる人になってください。

地震や津波、原子力発電所の事故に命がけで立ち向かう、消防士さんや警察官、自衛官の人たちの姿を、みなさんはテレビを通して見たと思います。そして何より、子どもたちを命がけで守った、たくさんの先生方のことを忘れないでください。

みなさんも、一生懸命勉強し、スポーツで身体を鍛え、芸術に触れて優しい心を育み、そして他人のために働ける人になってください。

なんだか、お願いばかりになってしまいました。

しかし、これが私のいまの気持ちです。日本の未来は、みなさんにかかっているのです。

私も、全国の学校の先生と一緒に、日本中のすべての子どもたちが笑顔で登校できるように、全力でみなさんを支えます。

みなさんの明るい笑顔で、もっともっと日本を元気にしてください。

もんぶかがくだいじん ひらの ひろふみ
文部科学大臣 平野 博文

(被災地の小学校段階の児童向け)

しんがつき わか
新学期を迎えるみなさんへ

みなさん、入学、進級おめでとうございます。

ほんとう
本当にたいへんな一年をのりこえ、こうしてみなさんが、また学校に来てくれていることを、まず、なによりも感謝したいと思います。

ほんとう
本当にありがとう。

ひがしにほんだいしんさい いちねん
あの東日本大震災から、一年がたちました。

みなさんの中には、まだ仮設住宅などで不自由な生活をしている方たちがたくさんいらっしやると思います。校舎が壊れ、まだきちんとした教室で授業を受けられない学校もあります。

それでもみなさんは、この一年、笑顔をお忘れずに頑張ってきましたね。みなさんの笑顔が、私たち大人に、未来への大きな希望を教えてくださいました。

もう一度、本当にありがとう。

わたし
私たちも、みなさんが一日でも早く、普通の学校生活を取り戻せるように努力をしていきます。

たいせつ かぞく ともだち ふるさと ふうけい うしな かな わす
大切な家族や、お友達や、故郷の風景を失った悲しみは、たやすく忘れられるものではないと思います。「悲しみを乗り越えて」と言葉でいうのは簡単ですが、それはとても時間のかかることです。

ひとり
でも、みなさんは、一人ではありません。

がっこう なかま せんせい
学校の仲間や先生がいます。

なかま とも まな べんきょう ぶんかかつどう つう なに むちゆう
仲間と共に学ぶこと。勉強やスポーツや文化活動を通じて、何かに夢中になることを見つけて、みんなと一緒に夢中になって、そのことで、悲しみが少しでも和らぐならと願っています。

にほん しぜんさいがい おお くに
日本は自然災害の多い国です。

つなみ じしん わたし う わ かやまけん さくねん すいがい おお ひがい う
津波、地震だけではなく、私の生まれた和歌山県も、昨年、水害で大きな被害を受
けました。

しぜん にんげん きび しれん か わたし にんげん しぜん
自然は、人間に厳しい試練を課すときがあります。しかし、私たち人間は、自然か
らの恵みを受けて生きていることも間違いありません。

どうか、たくさん勉強をして、自然と共に生きる知恵を学んでください。

こんかい しんさい がいこく から たくさんの てだす はげ
今回の震災では、外国からもたくさんの手助けや励ましがありません。

にほん にほんじん そんざい
日本と日本人は、ひとりぼっちの存在ではありません。

みなさんは、大人になってから、助けてくれた外国の方たちに、きちんとお礼を言え
る人間になってください。そして困っている人がいたら、手をさしのべられる人にな
ってください。

じしん つなみ げんしりよくはつでんじょ じ こ ふっきゅう ふっこう いのち た む しょうぼうし
地震や津波、原子力発電所の事故、そして復旧、復興に命がけで立ち向かう、消防士
さんや警察官、自衛官の人たちの姿を、みなさんは見てきたと思います。そして何よ
り、子どもたちを命がけで守った、たくさんの先生方のことを忘れないでください。

みなさんも、一生懸命勉強し、スポーツで身体を鍛え、芸術に触れて優しい心
を育み、そして他人のために働ける人になってください。

わたし がっこう せんせいがた いっしょ えがお き ぜんりよく
私も、学校の先生方と一緒に、みなさんの笑顔が消えないように、全力でみなさ
んを支えます。

どうか、この春には、たくさんの新しい友達を作ってください。

そうして、みんなで一緒に、もっともっと、楽しい学校を作っていきましょう。

もんぶかがくだいじん ひらの ひろふみ
文部科学大臣 平野 博文

(全国の中学校・高等学校段階の生徒向け)

新学期を迎える皆さんへ

皆さん、入学、進級おめでとうございます。

この一年は、私たち、すべての日本人にとって、厳しい、試練の一年でした。

被災地ではまだ不自由な生活を余儀なくされている方々も多くいらっしゃいます。

家族や友人を失った方たちの悲しみは、癒やされることはないでしょう。

それでも春は来て、皆さんは新しい年を迎えます。

どうか、新しい一年が、皆さんにとって希望に満ちたものになることを祈ります。

私たち文部科学省一同は、皆さんが豊かな学校生活を送れるように、全力を挙げてサポートをしていきます。

この一年の若い皆さんの活動は、私たちに希望と勇気を与えてくれるものでした。

全国の多くの生徒さんたちが、ボランティア活動に参加したり、募金を集めてくれたりしました。被災地の避難所では、皆さんが率先して、お年寄りや身体の不自由な方々を助けたり、大人に代わって、あるいは大人以上の活躍をしたりしてきたという報告もたくさんありました。

私は、そんな皆さんを、強く誇りに思います。

皆さんの力が、必ず日本を再生へと導くでしょう。

災害を直接経験した皆さんも、直接の被災は免れた皆さんも、十代の最も人間が成長する時期に、人生観を揺さぶるような大きな体験をすることになってしまいました。

この一年、皆さんは、自然の猛威、命の大切さ、人と人とのつながりなど、様々なことを学び考えてきたと思います。

この大震災を通じて、日本国と日本社会も、大きな変化を余儀なくされています。

「戦後」に変わる、「災後」という言葉も使われるようになりました。

大量生産大量消費を前提とし、経済効率を優先した社会、あるいは物質至上主義か

ら、どうやってこの国のかたちを変えていくのか。自然と共生して生きてきたはずの日本社会が、その本来の姿を取り戻すためには何が必要なのか。

今回の東日本大震災では、地震、津波の他に、原子力発電所のあってはならない事故が起こり、国民の皆さまに、いまも、たいへんなご迷惑をおかけしています。皆さんの中にも、故郷が避難区域に指定され、戻れない生徒さんたちがたくさんいます。

科学技術は、本来、私たちが豊かにし、幸せにするものです。

どうか皆さんは、もっともっと勉強をして、どうすれば科学技術が人々の幸福に役立つかを考え、行動できる人間に育ってください。

皆さんに求められる一番重要な能力は、自ら学び、自ら考える力です。

どうか、とことん考えてください。日本国と日本社会の未来について、自ら考え、そして行動する力をこの一年で蓄えてください。

学校は、単なる知識や情報を得る場所ではありません。仲間と共に学び、共に考える。学校はそのような場所だと思います。

平成22年4月からは、高校教育の実質無償化という新しい制度が始まりました。

これは、高校教育を社会全体で支えていこうという考え方に基づく新しい政策です。高校生の皆さんは、社会全体に支えられ、育てられています。また成長したのちは、その能力を社会に還元することが期待されています。その期待と信頼を裏切らない大人となるための勉強を続けてください。

今回の震災では、諸外国からたくさんの支援や励ましが届きました。

日本は決して、孤立した国ではありません。これからの日本人は、日本人である誇りを持つと同時に、地球市民としての自覚も持たなければなりません。

皆さんが成長した際には、世界中の人びとに、今回の震災に対する支援へのお礼をきちんと述べることのできる能力が必要になります。また、他国でも同じような災害があったら、国籍や民族に関係なく、手を差し伸べることのできる人間になってください。

日本の未来は、皆さんの双肩にかかっています。

少年老いや早く学なりがたし、一寸の光陰軽んずべからず
いま、青春の貴重なひとときを無駄にせず、学業にスポーツに、芸術や文化活動に、
悔いの残らないように取り組んでください。
私も、全力で、皆さんの支援を行っていきます。
地域の復興、日本の再生のために、共に進んでいきましょう。

文部科学大臣 平野 博文

(被災地の中学校・高等学校段階の生徒向け)

新学期を迎える皆さんへ

皆さん、入学、進級おめでとうございます。

本当にたいへんな一年をのりこえ、こうして皆さんが、また学校に来てくれていることを、文部科学大臣として、まず、なによりも感謝したいと思います。

本当にありがとう。

あの東日本大震災から、一年がたちました。

皆さんの中には、まだ仮設住宅などで不自由な生活をしている方たちがたくさんいらっしゃると思います。校舎が壊れ、まだきちんとした教室で授業を受けられない学校もあります。

それでも春は来て、皆さんは新しい年を迎えます。

この時の流れを、無情と感じるか、時が様々なことを癒やしてくれるとを感じるか、皆さんもいろいろな思いを胸に、入学式、始業式に臨んだのではないのでしょうか。

どうか、この新しい一年が、被災地に希望の光が見える一年となることを祈ります。

私たちも、皆さんが一日でも早く、普通の学校生活を取り戻せるように努力をしていきます。

皆さんは、この一年、自分自身が苦しい環境にあるにもかかわらず、避難所で、仮設住宅で、お年寄りや身体の不自由な人を助けたり、大人に代わって、あるいは大人以上の活躍をしたりしていただきました。私は、そんな皆さんのことを、本当に誇りに思います。

皆さんの、その若い純真な力が、郷土を愛する気持ちが、地域の復興と、日本の再生の原動力となると信じています。

皆さんは、十代の最も人間が成長する時期に、人生観を揺さぶるような大きな体験をすることになってしまいました。

この一年、皆さんは、自然の猛威、命の大切さ、人と人とのつながりなど、様々なことを学び考えてきたと思います。

この大震災を通じて、日本国と日本社会も、大きな変化を余儀なくされています。「戦後」に変わる、「災後」という言葉も使われるようになりました。

大量生産大量消費を前提とし、経済効率を優先した社会、あるいは物質至上主義から、どうやってこの国のかたちを変えていくのか。自然と共生して生きてきたはずの日本社会が、その本来の姿を取り戻すためには何が必要なのか。

今回の東日本大震災では、地震、津波のほかに、原子力発電所のあつてはならない事故が起こり、国民の皆さまに、いまも、たいへんなご迷惑をおかけしています。皆さんの中にも、故郷が避難区域に指定され、戻れない生徒さんたちがたくさんいます。

科学技術は、本来、私たちが豊かにし、幸せにするものです。

どうか皆さんは、もっともっと勉強をして、どうすれば科学技術が人々の幸福に役立つかを考え、行動できる人間に育ってください。

皆さんに求められる一番重要な能力は、自ら学び、自ら考える力です。

どうか、とことん考えてください。日本国と日本社会の未来について、自ら考え、そして行動する力をこの一年で蓄えてください。

学校は、単なる知識や情報を得る場所ではありません。仲間と共に学び、共に考える。学校はそのような場所だと思います。

平成22年4月からは、高校教育の実質無償化という新しい制度が始まりました。

これは、高校教育を社会全体で支えていこうという考え方に基づく新しい政策です。高校生の皆さんは、社会全体に支えられ、育てられています。また成長したのちは、その能力を社会に還元することが期待されています。その期待と信頼を裏切らない大人となるための勉強を続けてください。

今回の震災では、諸外国からもたくさんの支援や励ましが届きました。

日本は決して、孤立した国ではありません。これからの日本人は、日本人である誇

りを持つと同時に、地球市民としての自覚も持たなければなりません。

皆さんが成長した際には、世界中の人びとに、今回の震災に対する支援へのお礼をきちんと述べることのできる能力が必要になります。また、他国でも同じような災害があったら、国籍や民族に関係なく、手を差し伸べることのできる人間になってください。

被災地の将来、日本の未来は、皆さんの双肩にかかっています。

地域の復興、日本の再生のために、共に進んでいきましょう。

文部科学大臣 平野 博文

(教職員等学校関係者向け)

全ての学校関係者の皆様へ

新しい一年が始まります。

新年度を迎えるに当たって、皆様に御挨拶申し上げます。

この一年、避難所で、仮の教室で、屋外活動を制限された学校で、子どもたちのために少しでもいい教育環境をと尽力してくださった全ての教職員の皆様に、心よりお礼を申し上げます。あわせて教育委員会、保護者の皆様、地域の皆様やボランティアの皆様の御努力にも、心より感謝いたします。

一年前の、津波と地震では、教職員の中に、子どもを守ってお亡くなりになった方々もいらっしゃいました。その後の学校生活でも、様々な不自由の中で、被災地の教職員の皆様は献身的な努力をしてくださいました。担当大臣として、何よりもそのことを誇りに思うと同時に、亡くなられた方々に改めて哀悼の意を表し、皆様の御努力に感謝いたします。

本年3月11日のメッセージにも書きましたが、この一年、被災にあった子どもたちは、その厳しい運命に押しつぶされることなく、一人一人、学校へと戻ってきてくれました。苦境におかれても、困難に屈せず頑張る子どもたちの笑顔や目の輝きに、逆に私たち大人の方が、たくさんの勇気をもらいました。

文部科学省は、今後も、被災地の学習環境を回復させるための最大限の努力をしてまいります。尊い命が奪われた悲しみを忘れず、亡くなられた方々の御魂^{みたま}に報いるよう、地域再生のための新しい教育にも積極的に取り組んでまいります。

学業を疎^{おろそ}かにしないことはもちろんですが、震災で傷ついた子どもたちの心を、スポーツや文化活動などを通じて少しずつでも和らげていく取組も必要かと思えます。文部科学省は、平時以上に柔軟に、地域の実情をくみ取りながら、積極的な支援を行ってまいります。

被災のなかった地域の子どもたちも、多くのことを考え、学んだ一年であったと思います。ボランティア活動などを継続し、命の大切さ、人を思いやる心を育てる教育を更に深めていきましょう。

この一年間に、日本の子どもたちが見せたすばらしい行動力、思いやりの力、強い精神力、そこにこそ日本の未来を託しましょう。

この大震災と原発事故を通じて、日本の教育の在り方も、当然見直すべきところは大きく見直していく必要が出てくると私は考えています。

一例ですが、科学技術がどのように人々の役に立つのか、またその限界や危険性は何かなどを含めた視点から、人間生活と科学技術の在り方を共に考える教育を一層重視していく必要があるかと思えます。

防災、防犯や安心・安全に関わる教育は、それぞれの教科等の学習と連動させながら、「いのちを守る教育」として改めて考えていくべきかもしれません。

自然と共生できる新しい日本社会を作っていくためには、どのような教育の形が必要なのかを、皆さんと共に考えていきたいと思えます。

どうか、皆さんの知恵を出していただき、新しい日本の教育の形を作っていこうではありませんか。

一方、被災地の教職員の皆さんには、御自身の体と心のケアも忘れないようお願いいたします。この一年、皆さんは、極度の緊張状態の中で、大変な御苦勞をされてきたと思えます。どうか、少しでも自分の体と心を休める時間をとっていただき、明日への活力としてください。この点に関しても、文部科学省は、できる限りのサポートをしていきたいと考えています。

子どもたちへの私の気持ちを、メッセージとして文章にしました。小学校低学年段階の児童には、少し難しい部分があるかもしれません。教室で、その部分を補っていただければと存じます。

平成24年度も、文部科学省職員一同は、一丸となって、現場の皆さんを支えていきます。

私自身も、できるかぎり、たくさんの機会を設けて被災地や学校現場を直接訪れ、関係する皆様の声をお聞きし、具体的な政策を推し進めてまいります。

全ての子どもたちの未来のために
子どもたちの笑顔のために

是非、多くの方の御協力を頂きますよう、お願い申し上げます。

文部科学大臣 平野 博文